

学校図書館だより

2025 年 12月号 FOR STUDENTS

2025 年 11 月 25 日

大田区立東蒲中学校

校 長 小松 重樹

読書学習司書 横田 美奈



2 学期もまもなく終了します。年末年始のイベントや受験も気になる時期ですが、あたたかい部屋で読書も楽しんでください。一年をふり返ったり、新しい春に想いをめぐらせながら、ページをめくりましょう。

学校図書館カレンダー 12月～1月

月	火	水	木	金
11月/24 振替休日	25	26 (休)	27	28
12月/1	2	3 (休)	4	5
8 冬の特別貸出はじまり	9	10 (休)	11 ラッピング図書貸出はじまり	12
15	16	17 (休)	18	19
22	23	24 (休)	25 終業式	26 冬休み開始
			R8・1月/8 始業式	9
12 成人の日	13	14 (休)	15	16

月・火・木・金は、昼休み・放課後ともに使用できます。

(休): 水は読書学習司書が勤務していないので休館日です。

お知らせ

★返却期限を まもりましょう★

長期未返却の人には、担任の先生を通じて連絡票を配布します。
返却期限を守って、連絡票をもらう前に、本はかえしましょう。

★冬休みの特別貸出★

12月8日(月)～25日(木)

ひとり5冊まで貸出します

期間中に借りた本は、

1月15日(木)までに返してください。

🎀 今年もやります！ 図書委員会のラッピング図書 🎀

図書委員会恒例のラッピング図書を12月11日(木)から貸出します。ラッピング図書とは本の福袋のようなもの。図書委員20名がみんなにおすすめしたい1冊を選び、心をこめたカードを添えてラッピング。

♪ どんな本が入っているかは、借りてからの楽しみ ♪

限定20冊！ ぜひ借りにきてください。



← 昨年の様子

🎄 ふゆやすみ🍰・・・料理にチャレンジしてみませんか？

学校図書館には料理の作り方の本が約150冊あります。

本を参考に、クリスマスやお正月料理に挑戦してみてもはどうでしょう？ お節料理の由来など豆知識も身に付きます。



料理の本は、5類家庭のコーナーにあります。画像左から、『なりたいな、料理の名人』⑥『おしゃれきぶんのクリスマスメニュー』⑦『おめでとうの正月料理』(岩崎書店)、『かわいくておいしい！手づくりレシピ4「誕生会・クリスマス・バレンタインデーのイベントお菓子」』(ポプラ社)

新着図書のしょうかい

(内容参考：(株) 図書館流通センター書誌詳細)

きみの力になる賢人の言葉 90

西沢泰生／著 メイツ出版 159 に



「昔の人の考え方や経験を知れば、それが今に生きる」「頭で考えたことは、現実になる」…。悩んだとき、あきらめなくなったときに力を与える賢人たちの 90 の名言を紹介する。名言についての解説や教訓も掲載。

自分らしく、あなたらしく

高橋うらら／著 さ・え・ら出版 369 た



病気や障がいのある兄弟姉妹をもつ「きょうだい児」。彼らは何を思い、どのような悩みをかかえながら、自分の生きる道を見つけてきたのか。みずからも元きょうだい児である著者が、きょうだい児たちの歩みや活動を描く。

王者の挑戦 「少年ジャンプ+」の10年戦記

戸部田誠／著 集英社 726 と

多くの読者を獲得し、人気マンガ誌アプリとなった「少年ジャンプ+」。どのようにして生まれ、どのようにして進化し、今後どこを目指していくのか？マンガ誌アプリ「少年ジャンプ+」の秘密に迫るノンフィクション。



すごいグラウンドの育て方

金沢健児／著 学研 783 か

「日本一水はけのよいグラウンド」といわれる阪神甲子園球場。阪神園芸のグラウンドキーパーたちが、苦労と失敗を重ねながら、グラウンド整備をしてきた。どのようにグラウンドを育ててきたのか、グラウンドキーパーとはどんなことをしているのかを紹介する。

介護の花子さん

あさば みゆき／著 学研 913 あ

就職先が決まらないまま大学を卒業した花を正社員として迎えてくれたのは、高齢者向け集合住宅だった。介護の経験がないまま仕事に就いた花だったが…。『介護の現場』のリアルなドラマを描いた、“働きたくなる”物語。

パズルと天気 Puzzle and Weather

伊坂幸太郎／著 PHP 研究所 913 い
悩みを抱えた「僕」は、マッチングアプリでしか出会えない「名探偵」に依頼することに…。表題作「パズル」をはじめ、「竹やぶバーニング」「透明ポーラーベア」「イヌゲンソーゴ」「Weather」…

伊坂ワールドの魅力がつまった 5 編の短編を収録する。

今日は昨日のつづき どこからか言葉が

谷川俊太郎／著 朝日新聞出版 913 た

2024 年 92 歳で逝去した著者の詩、47 篇。『朝日新聞』連載をまとめて単行本化。

目が覚める 庭の紅葉が見える
昨日を思い出す まだ生きてるんだ
今日は昨日のつづき だけでいいと思う
何かをする気はない (「感謝」より)

タイムマシンに乗れないぼくたち

寺地はるな／著 文藝春秋 913 て

一人ぼっちのつもりだった。だけど、そうじゃなかった…。人知れず抱えている居心地の悪さや寂しさ。そんな感情に寄り添い、ふと心が軽くなる瞬間を鮮やかにすくい取った短編 7 編を収録する。

「コードネームは保留」「タイムマシンに乗れないぼくたち」「口笛」「夢の女」「深く息を吸って、」「灯台」「対岸の叔父」『別冊文藝春秋』掲載を書籍化。